部が所定の所まで駆け出し柿や密柑など拾わせたり、又特に入学前の大きい組が動作遊戯などしたこともありました。幼児の教育を永い目で見て学校に上るようになれば遠足や演芸会などもあるという楽しみをもたせてありました。

終りに私は幼児教育に携わったというより幼児に教育されたので御座いました。毎朝一日のお祈りをする時、幼児の前に立つとき私の心は純真そのものでありました。又今日の遊びを終え、さよならと幼児の後姿を途中無事なれと合掌しました。祈る心は純真な幼児の賜物でありました。私は今昔のお茶の水幼稚園の藤棚の下で御指導下さいました諸先生方の御面影を偲び御健康と御幸福を祈り又謹んで倉橋先生の御冥福を祈り奉ります。（鹿児島市鷺師町三十）

想い出

大石雪枝

私が初めて就職しましたのは慥か日露戦争の始る寸前かと思います。

当時は付属と申しましても、本校の前の道路をへだてた向側にあるので毎日本校の職員室の校長の机の前においてある出勤簿に判をおして正門を出て、向側の幼稚園へと参るのでした。ある先生は一度幼稚園の前を素通りして、又引かえすという、ややこしい事を毎日繰り返すのでした。今から思うと何とも繁雑な事でしたが、当時はユッタリとした世の中なのか、誰でもがノンビリしていましたので、誰もあたり前の事と思ってむだな道を往復したわけで、私も毎日こうした事をくり返し、十有六年間奉職しました。帰宅の際は園長先生初め一同揃って本校に行き校長に挨拶して帰るのでした。今考えると少々封建的なことのようでした。

当時職員は小向先生、次席の青木せい先生（最年長者で故参の方）、村さだ先生、永田ヨシ先生と年少の私との五人でした。幼児の数も百二三十名ほどでしたと思いました。保育の方法や時間割のようなものは皆小向先生の支配の下にありました。四組あるのに保育室が三遊嬉室が一なので大体三四と合併、一二と組合っての保育をしていました。私は小向先生につきいろいろと実際の教をうけていました事を覚えています。先生は末経験者をお仕込みになるのを好まれとても細かく御導き下さいましたが、不束な私、何事も先生の思う様に働けませんので申しわけないと思う事許りでした。楽器の指使いからお話の仕方等々よく注意されましてその親切な程涙が出るようでした。今でも身にしみて有がたいと思っています。私の一生を通じて歩けた道の根本を教えて下さったこと、それを勤めながら教った偉大な賜物と一日一日を感謝して、この先生あるが為十有六年を無事に勤められたのです。

付属幼稚園と申しましても校長が視察に参られた事殆どなく、不自由勝な事多々ありました。が成瀬校長が病没され湯島校より杉浦校長が転任されてよりはよく参観に参られ、いろいろ主任と相談されて内外の設備もよくなり、又私共の保育の実際を見られたり運動具を考案されたり、消耗品の補給など十分になり、一同喜んではげみも出ました。幼児も大分ふえ手不足となり何年か忘れましたが、板橋いよ先生が、沼津女学校御出身間もなき頃就職されました。まだ肩上をして袴をはいた初々しいお姿でした。主任の先生喜ばれ、私と同様やさし

く指導されました。青木先生と一緒に年少組を補佐されました。

手は揃っても室不足でしたが、間もなく一室が増築され漸く各自の保育室が出来安心して保育が出来るようになり、外部が調うと共に、保育方面も大分変り、その頃より保育案を各組にて作ることになり、土曜日毎に来週一週間の案をたて、主任の許に提出することになりました。それにつき各組ばらばらではとのことで、保育細目が必要となり、これは主任の先生がいろいろと考案して作って下さいました。恩物の中より必要な種目を選び、摺紙、剪紙、織紙、豆細工等々を一々実際の通りに作り、一種づつ一冊の本に貼りつけてあります。摺紙の例をとると、四角より三角に摺み上を折って富士山にした、年少組の簡単なものより、種々折り手の込んだものまで本の中に張りつけておいて参考にしましたものを備えてあり、それによりお話から手技、遊戯と大体一連した保育案が出来上るようになりました。

毎年三月には、各自受持児童の個性観察簿を作り、細かく調べあげて書きつけ、主任の許まで提出しますので、幼児の日常を細かく見てゆく上にはよい事なので、少し変った事を見出した折にはノートしてそれらを参考とするので毎日注意するようになり、よい事と喜んでいました。

この外、毎日幼児の退園後は、保育案により翌日の手技の材料を調える事があります。ある組は煎紙の支度、ある組は豆細工の為にヒゴ竹を細目により種々の寸法や入用の数に切ったり、それぞれの準備をととのえます。手のあいた方はお手伝をして、五人とも実に和気靄々の中に仕事をすましその後で新らしい遊戯を主任より指導うけたり、唱歌を練習したり、いろいろ研究する時もあり、帰りも一緒に門を出て、東と西に別れます。この頃（杉浦校長）になり本校に挨拶に行くことをやめました。日露戦争後間もなく青木先生は病没され、其後二三の方が就任されましたが、何れも他区の小学校より転任でしたが二三年位でやめられ、本校出身の山本銀子先生が就任されまして板橋先生の補佐をされていられました。

青木先生の没後、私に次席との事でしたが私はかたくお断りしましたが、主任は校長の命だから受けなさいとのことでおうけしまして、何も分らぬのではずかしい思いでしたが、主任の護肴のお力で過失もなく勤めておりました。ある日区役所より、功績表賞式に参列するようにとの書状で、何かの間違いかと先生に尋ねました所、これも校長との相談で推選したから喜んでうけなさいとのこと、度々辞退しましたが、とうとうあの席に列しました。不束な私、少しも功績などなく、只青木先生の跡に腰を下したのみ、大方は青木先生のお力なので、とてもはずかしく顔から火が出そうにあがって真正面むくこと出来ません気がしました。余りの事に当時の事をおぼえません。ゆめのようで、只区長さんより記念品と賞状を頂いて台の上に並んだ事丈をおぼえています。こうした主任の御愛護の下に楽しい一日を幼児と共に和やかな気分で暮したので自然と幼児にも伝ることと毎日が感謝の一日でした。私が就任当時は年少の組はお弁当の時間になると、受持の先生が各自のお弁当を机の上に並べ、包みをほどいてお弁当箱を出し、お箸を揃え、お茶碗をおいてたべられるばかりに用意します。やがて小使のならす鐘の音に外で遊んでいた幼児はお手洗をすまし、各自のお弁当の前に腰を下し、先生のオルガンの音を待っていて、その音に合せ、お礼をして頂きますといって楽しいお食事が初ります。先生は机のまわりをまわってお湯をついだり、中にはお茶わんによそって頂く幼児があるのでよそってあげたり、仕末の出来ぬ児にはチ

ャンと包んであげます。中々手が入りますので、主任も手伝われることがあります。食事が全部すんで遊びに出たあとで受持の先生はお食事ですが、時にはおそくなる幼児の為一時頃までかかり、お食事をする時間がなくなり直にお帰りのおけいことなる時が度々ありました（一時半退園時間でした）。

こんな工合で四の組は二人となったのです。その組以上は各自戸棚から自分自分のを持って来て机に並べ、合図の音楽で静かに礼をして頂きます。食後は一同のすむまで、絵本をみたりして待ち合せ揃って外に出ます。各組とも食後のウガヒをさせます。在職当時は保護者会などなく、学芸会のようなものや、運動会、遠足などもなく、大正四五年頃になり上野動物園に毎年春に一同で参りましたこともあり、修業式のあとで、保護者方の前で幼児が、二た組位に分れて、それぞれお得意の遊戯を唱いながら、亦音楽に合せて舞ったりして見せる位でした。参観の母様方には一生懸命に演ずる愛らしい姿に涙を流し、みとれていられます。幼児も亦日頃教へ戴く私達の前を大得意で上手に演出して通るその顔。ほんとうに共に涙が出ました。その時の幼児は男児でも和服姿が多数で、羽織袴でした。中にはお祝いの黒羽二重の紋付姿も二三人、小学校の制服や水兵服の可愛らしいのも見え、女児は殆ど和服で友染の被布姿が大分あり、洋服は一二人位、参列の母様方も殆ど日本髪で、実に質素な服装でした。幼稚園でも明治卅七八年から四十年頃と覚えますが、先生方は皆日本髪（其頃いちょう返し）で、袴にした、袖のある衣物で重い感じでした。私は初めから洋髪で、袖の短い衣物に袴でした。

明治四十年でしたか、皆さん洋髪となり袖も短くし、明治の末期には小向先生の御考案になる特別な洋服（職服）を手縫で作り幼稚園丈で着用する事となり、身も軽く見る眼も一同揃ったので気持よくなりズット着用していました。主任はかく方面より研究され私共を御指導下さいましたが外部に向ては消極的な方でしたが杉浦校長となり段々ほかの幼稚園にも参観に出かけるようになり、安井先生、倉橋先生が幼稚園に関係されるようになってから積極的に進まれ、フレーベル会の総会の折には私共の余技として板橋山本先生のバイオリンの伴奏で二部合唱を、あとの先生方と私は歌ったことがあり、又幼児の自作の遊戯に手を加へて総会に発表したりして私共をはげまして下さいました。またこれは保育上直接には関係なく、或いは主任の個人の功績かとも思い余事かしらと思いますが、これらが私共の円満な気分となり、この為に児童に対し自然とおだやかになり、よき保育が出来上るのではないかとも考へまして、ここにかき添えさせて頂きました。それは主任の申されるには、一日バタバタと暮して仕舞っては、人として潤いのない事で精神修養や情操の方面にも力をつくさねば人として円満な生活が出来ないとのお説により、室内の装飾にもなるので、校長の許可を得て元大阪師範の舎監であり末生流の家元師範の方に御願いして、毎週土曜日の午後、けいこをして頂きましたり、私共絵がうまくかけませんので主任に（師範学校当時日本画家の内弟子となられ翠国の雅号で展覧会に入選された方）教えて頂いたり、又御自身の趣味でもありますが、修養になるとて謡曲を習はれていられたので、これを幼稚園の職員の有志に夜分教えて下さいましたり仕事も同様でした。只それのみでなく、観賞の仕方作法のいろいろを能楽堂へ同行され指導して頂いたこともあり、時には謡会の席にて末席に列なることもあり、実によくお導き頂きました。これらの事共は今でも役にたち身に残っていて今閑居の身近くの山野に咲く草花を採り投げ入れては当時の事を忍びます。（15頁につづく）

って園舎の増改築、施設の充実、消耗品費等まで、保護者の負担に（ＰＴＡ・育友会を通して）負うところが少くありません。そのために一人の幼児を通園させるのに可成りの費用がかかることになります。〝京に田舎あり〟と申しましょうか、どんなに有福な地域にも露地や裏町があり、間借りや二階借り族はある訳です。託児所のない地域では、一応それに類した考え方から、入園を希望していらっしゃる人達のあることも予想されます。とどうしても公立幼稚園は、物質的負担の少いもの即ち教育の機会均等を得させるために十二分に庶民性をもった経営でなければならぬと思います。以上は園児数の減少に備えての対策の一例であります。

○減少から起る問題

1. 教育基本法に準拠しよう。

大阪の町には幼稚園バスが縦横に走っています。〝送り迎い〟〝バス横づけ〟に魅力を感じて私立幼稚園にいらっしゃる方も多いようです。園児獲得のために、園児用鞄に願書用紙をいれて戸別訪問される幼稚園、先生やＰＴＡ役員に一人〇〇名という園児獲得責任数が与えられて、大量に募集されているところ等随分幼児争奪あの手この手が生れて来たようです。（勿論これは公立の問題ではありません）しかしこれは、昭和二十八年頃の幼稚園ブームにのって、あまりに幼稚園が認可された結果でやむを得ぬことなのです。そこで思うことは園児数漸減の将来を見透して、法の定めるところに従って三歳の幼児（三年保育）を保育の対照にしてはどうかということです。多年の念願時期到来ということではないでしょうか。そのためには施設にも、保育の方法にも多くの考慮が払われ、一組の幼児数にも慎重な勘案がなされねばならぬ面はありますが、幼児数減少から起る問題の一つは解決されるのではないかと思います。

2. 園児募集は入園式の翌日から

十二月の半頃、私の方のＰＴＡ役員の一人が〝園長先生、私の方の近所には三つの幼稚園があります。そこでは十月頃からしきりに勧誘にみえています。すすめられてその方にいらっしゃる方も大分あるようですが、こんなにじっくりしていて大丈夫ですか〟と仰言いました。私の方は入園式の翌日からの毎日が入園募集だと考えて保育に専念しているのですが、それでは駄目でしょうか〟といって笑ったことでした。おかげ様で三百余名を修了させて、涼しく三百名の新入園児を迎えました。日日精進、保育の本道をひたぶるに歩むことこそ、世論を喚起することであり、幼稚園教育の重要性を認識させることであり、招かずして園児を集める方法ではありますまいか。

（全国々公立幼稚園長会理事）

（46頁よりつづく）

そうして、旧き教え子が有名な学者や知名方に成功されたのを新聞やラジオに見聞する度毎に、何ともいへぬ今昔の思いたえません。板橋先生にはこの主任の教をうけられた一人でしたのに、今は病床に伏されたこと先生は元より私も実に残念でしたが、人格高く徳広き山村きよ先生が後任として毎日毎日を幼稚園の為に御つくし下さるので、誠之幼稚園の名声いやが上にも高まることと旧職員の一人としてほこりと身のひろき思いに明けくれ、宮島のあの美しい海の見えるこの閑居の二階よりはるかな東の空をなつかしく眺めては、いやさかをお祈りいたしています。

（広島市迎洋本町一〇九六）